

新規収入確保の取り組み

下呂営林署 萩原森林事務所 森林官 長 屋 憲 昭

1 目 的

収入確保については、署・現場一体となって積極的に取り組んできましたが、新たに新規収入確保として取り組んだ（別表1）事例と、これまでの取り組みに更に検討を加え、収入確保を図った事例の中から主なものについて発表します。

別表1 新規収入確保の取り組み

区分	年度	平成4年	平成5年
受託事業		7,535 千円	8,519 千円
土砂販売		0 "	3,170 "
素材の販売		2,881 "	2,298 "
二次販売		0 "	2,951 "
副産物の販売		402 "	720 "
地元行事		31 "	75 "
転石販売		332 "	0 "
合計		11,181 "	17,733 "

2 新たに取り組んだ事例

(1) 受託事業

当署の受託事業は、国有林野内（直轄）治山事業の中で保安林改良事業で森林整備を中心に計画実行しております。まず、この森林整備の取り組みにあたっては、対象林分が将来水源林として健全な育成天然林及び複層林として施業することが、条件であることから検討委員会において、造林等の通常の事業では林地の保全が図れないと認められる箇所を選定しました。

その結果、

- ① 御厩野国有林 作業種 地拵え他 47 HA
- ② 川上・本洞国有林 " 本数調整伐 190 " が第8次治山事業5ヶ

年計画に組み入れられました。

このうち平成4年度及び5年度の実行結果は別表2のとおりです。

別表2 受託事業の概要

1 御厩野国有林

作業種	年度	平成4年	平成5年
地 拵 え 他		4 HA	5 HA
受 託 金 額		3,124千円	4,405千円

2 川上・本洞国有林

作業種	年度	平成4年	平成5年
本数調整伐		23 HA	18 HA
受 託 金 額		4,411千円	4,114千円
合計金額		7,535 "	8,519 "

(2) 土砂販売

まず、当署管内で治山谷止工に土砂が堆積したところはないか、あるいは、その他の箇所でも土砂を販売できる箇所について出署日等を利用して検討してきました。

その結果、谷止工については該当箇所はありませんでしたが、平成3年度に岐阜県益田山林事業所が発注した広域基幹林道（下呂～萩原線）の、舞台峠国有林を通っている箇所で、一部改良工事（土砂の切り取り）が必要なくなりました。

そこでさっそく検討委員会を作り調査をしたところ、現地は国有林の中を掘割のカーブでぬいた箇所で、当初の設計では軟岩として切り取り、法面緑化を実行したのですが、全面的に崩落し更に山腹の一部が崩壊していることがわかりました。

更に、この土砂は埋立て用土砂として適していることと、将来このカーブをぬき通行の安全をはかる必要があることがわかりました。

委員会ではいずれにしても、改良工事として土砂の切り取りが必要であることから販売することを計画し、この林道の発注者である益田山林事業所と打ち合わせを行い、林道の維持管理と切り取り終了後に林地に復するに必要な安全勾配で切り取り、販売することにしました。

具体的な検討事項

① 販売に必要な協議について

地元の町に対し開発行為の協議を行う。下流で飲料水として利用しているので、採取によって濁り等が発生しないよう必要な措置を行う。

② 切り取り勾配の決定と採取後の措置について

山林事業所と打合せの結果、勾配は1割とし、直高5メートル毎に1メートルの犬走り設ける。採取後草本類の種子吹きつけを行う。

③ 販売先の決定について

切取った土砂は広域基幹林道の建設資材として利用することを条件に、平成3年～5年の請負業者に随意契約で販売する。

その結果

販売数量＝14,405 m³ 販売金額＝3,170千円となりました。

3 これまでの取り組みに更に検討を加えた事例

副産物の販売

副産物の販売については、従来、七宗国有林に品質の良いサカキ等が自生することから地元の生花屋さんに販売しておりました。近年、生花がいろんな方面で需要が伸び買受け申し込みが増えたので収入増を図るにはどうしたら良いか、担当者及び現場森林官と検討委員会を開いたところ

- ① サカキ以外なら他の国有林にもあるので対象を管内全域とする。
- ② 業者によっては取扱う生花が違うので同じ区域へ複数の業者を入れる。

ということになり、早速業者に交渉した結果同じ区域への入林でも良いという承諾を得ました。

その結果

昨年まで2業者だったのが ～ 4業者に
サカキ他5樹種であったのが ～ サカキ他6樹種と増えました。

別表3 副産物の販売結果

種 類	平 成 4 年		平 成 5 年	
	数 量	販 売 額	数 量	販 売 額
サカキ・シキミ	236束	309,000 円	169束	350,200 円
ドウダンツツジ			93 "	221,450 "
マルバノキ・アブラツツジ			21 "	44,290 "
コウヤマキ	16束	15,450 "		
笹の葉	6,000kg	66,950 "	7,000kg	97,850 "
朴の葉	12 "	6,180 "	12 "	6,180 "
栃の実	200 "	10,300 "		
計		401,700 "		719,970 "

しかし、ここで問題が発生しました。お互いに相手業者を牽制する意味で、うちで買っている品目を勝手にとっている、といった苦情が何回も持ちこまれ担当者は、その都度応対に大変苦労しましたが、結果として大変収入増（別表3）につながりました。

4 結 果

以上、取り組みのうち主なものについて発表しましたが、平成4年度より収入が下回った事例や、検討のみに終わった事例もあり当初予定した収入確保にはなりませんでした。

しかし、署・現場がそれぞれ担当業務を離れて新規収入確保に取り組み、情報を集め各検討委員会に参加し収入確保にむけて努力したことは、営林署の現状を理解し今後の業務に取り組むうえで大きな成果であったと思います。

これからも更に収入確保については、署をあげて取り組んでいきたいと考えていますので、みなさんの助言をお願いして私の発表を終わります。